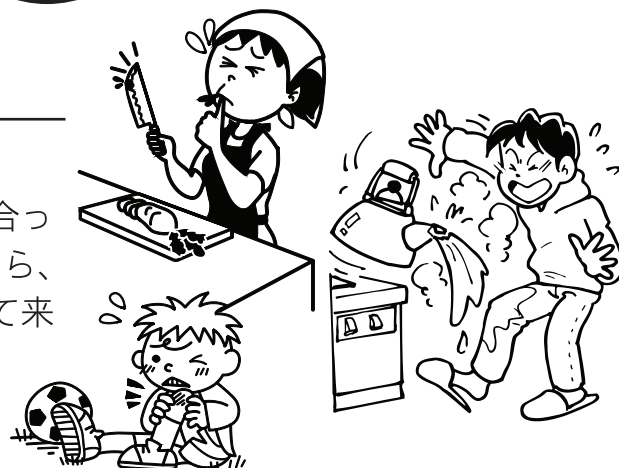


傷の うるおい療法 1

◎今までの傷の治療法

切り傷、かすり傷、やけどの傷。
日常生活を送る上で、人間は様々な傷と付き合っ
ていかななくてはなりません。ちょっとした傷なら、
近くの薬店や薬局で消毒薬と絆創膏を買って来
て、自分で治療をした人も多いことでしょう。
でも、傷が深くてズキズキ痛み出したら？
膿が出てきて熱を持ち始めたら？
そして、病院へ行って消毒をされ、ガーゼをあてられて、しばらくは毎日消毒に来
るように言われる。このような経験のある方も多いことと思います。



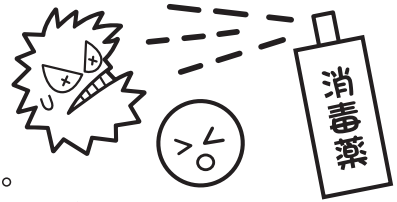
◎なぜ傷は治るのか

そもそも、どうして傷は治るのでしょうか？ 傷が出来ると、そこには侵入者（バイ菌）をやっつけるための白血球や、血を止めるための血小板などが集まってきます。次に、白血球や血小板が傷を治す役目を持った細胞をそこに呼び寄せたり、その細胞が傷を治すためのタンパク質を作ったりします。こうやって色々な細胞が協力し合い、バイ菌をやっつける作業と傷を治す作業を平行して進めた結果、傷は治癒に向かいます。

◎傷は乾かすと治る??

今までは傷を乾かして、かさぶたができるのと治った証拠とされてきました。でも、傷口で白血球などの細胞が働くためには、ある程度の水分が必要です。乾いた砂漠のような傷では、動くこともままならないのです。あれ？じゃあ、乾かしたらダメなの？

◎消毒すると治る??



バイ菌を殺すために傷口を消毒する。
これは、みんなが当たり前のように思っていることです。
しかし、傷口には傷を治そうとして色々な細胞やタンパク質が集まってきています。
消毒薬は、バイ菌と白血球などの細胞を区別せずに攻撃します。白血球だけが消毒薬の攻撃に耐えられる訳でもありません。あれ?じゃあ、消毒したらまずいの?

◎これからの傷の治療法

実は、傷を乾かすのも消毒するのも、傷を治すということにかけてはデメリットが多い方法だという事が分かってきました。特に、消毒をするとバイ菌とともに正常な細胞もやられてしまい、かえって傷の治りを遅くすると言われています。傷口を消毒した時の痛みは、正常な細胞が消毒薬でダメージを受けていた証拠だったのです。

そこで登場したのが「傷のうるおい療法」です。

- ① 傷口を乾かさず、うるおいのある状態に保つことで、傷を治すために集まってきた細胞に働きやすい環境を与える。
- ② 消毒薬を使用せず、バイ菌を水などで洗い流すことで、正常な細胞にダメージを与えずに(そして何より少ない痛みで)清潔を保つ。

うるおい療法は、従来の方法より痛みが少なく、早く治療できるとして、急速に広まってきています。

◎注意を要する傷

うるおい療法は新聞やテレビなどのメディアで取り上げられる機会が増えてきたので、目にされた方も多いことと思います。しかし、注意点もあります。

例えば、

■動物の噛み傷

動物の口の中には様々なバイ菌が住んでいるので、噛まれると傷口深くにバイ菌が入り込んでしまいます。そしてすぐに血液に乗って全身へ回る危険性が高い傷なので、抗生物質での治療や、場合によっては破傷風ワクチンなどを使わなくてははいけないかもしれません。

■釘などを踏んでできた深い傷なども同様です。

最近では、うるおい療法に関する書籍や、うるおい療法を実践している医師のリストを公開しているホームページもあります。本稿ではうるおい療法の紹介に留めておきますが、実践する場合は、専門家の判断を仰いでからにしましょう。

